

特集

# 青少年の主張 参加者 & 町議会

青少年の主張は、昭和60年に瑞穂町町政施行45周年と「国際青年年」を記念して始まりました。青少年の意識や考え方を知り、健全育成に生かすことをねらいとして、長年にわたり実施されている町の代表的な事業です。昨年度の青少年の主張（高校・一般の部）に応募された社会人の皆さんにお集まりいただき、お話を伺いました。

## すぐくプレッシャーをかけられた これからの糧にしていきたい（笑）

Q 青少年の主張に応募した理由は？

― 初任者研修で、紹介された。校長先生から「思ったとおり書いていいよ」と言われたけれど、主張という形の文は初めて書いた。  
― 先輩に、一年目に参加することを勧められた。

― 私も、初任者研修で聞いた。「この学校からは賞をとる人が続出」と言われて、すぐくプレッシャーをかけられた（笑）。でも、これまでの自分の体験を言葉にしたいと思って。  
― 先輩から、自分の主張を書いておくと、仕事をしていく中で、アウトプットでき

て、役に立つよと言われて。

Q テーマはどのように決めましたか？

― 毎日、子供たちからたくさんのおもしろい言葉をもらう。言葉の持つ重みを言葉にしたいと思って「言葉のもつ力」にしました。

― 学生時代は受け身だったけれど、社会人になって、自発的に行動するように。そこで「社会人になって」というテーマで、人生の転換期を迎えて、大変だったことや喜びを書こうと思いました。  
― 私は「地域の居場所の必要性」にしました。ボランティア活動の体験から感じた

― 採用の時に、文章力が足りないと言われていたので、挑戦できて良かった。貴重な体験になった。

― 毎日電話が鳴りっぱなしになるくらい忙しい時期に、入賞のお知らせを聞いて、とてもうれしかった。

― プレッシャーの中、入賞できてほっとした。大勢の前で話せたことは、人生の中でも少ない、良い機会になった。これからの糧にしていきたい。

Q 瑞穂町の印象は？

― 初めて東京に来た。西多摩郡は聞いたこともなかった。横田基地のある町と知って、ビルや人でいっぱいだったらどうしようと思っていたら、箱根ヶ崎駅に降りて、生まれ故郷と似ていてほっとした。人が温かい。特産品もたくさん。子供たちに瑞穂の良さを知ってもらいたい。  
― イベントの時、小さな子供からお年寄りまで、老若男女、たくさんの方が集う。素晴らしいと思う。そのことがPRされてないことが残念。

― イベントなどに、地域の方々が積極的に参加して、盛り上げていこうとする姿が素晴らしい。  
― とりの町に住んでいたのに、意外と知らなかった。自然が多い。サポーターの先生がいてくれて、とてもうれしい。教育に手厚い町だと思う。

Q 子供のころの夢は？

― ちっちゃなころはセーラーマウン。  
― 小さいころ警察官がかっこいいと思って



― ことを言葉にしたくて。

― ハンセン病との出会いは自分にとって、深く心に刻まれる衝撃的な体験だった。何としても多くの人に伝えなくてはと思って「今を生き抜く」にしました。

Q 応募または入賞しての感想は？

― 作品は夏休みに書いた。入賞の話は11月ごろ。すっかり忘れていたので「おめでとう」と言われて、何のことかとびっくりした。主張を書き、発表する体験は、子供たちに指導する上でとても勉強になりました。

― いた。プロ野球選手にもあこがれた。本の編集者。大好きな作家さんに会えると思って。

― 「いつも、コミュニケーションって言われるくらい学校が好きだったから、学校の先生。

Q 休日の過ごし方は？

― 体を動かすのが好き。社会人になってゴルフを始め、今はジムにも通っています。人と話すのが大好き。コミュニケーションがエによく行きます。

― 職場の野球部に所属。今はピッチャーも友達と小旅行にも行ったりします。  
― 一人で計画を立てて、過ごすのが好き。家でまったりしたり、お出かけを楽しんだり。

Q プチ目標は？

― 運動が苦手なんですけど、今度バレーボールの大会があるので、少しでも貢献したい。  
― 読書。今年は15冊読破が目標。  
― 3食きちんと食べる。  
― 青梅マラソンの記録更新。

Q 議会、「ギカイのひろば」に一言。

― 自分とはかけ離れた世界と思っていた。教育の事、どう取り組まれているのか、関心があります。  
― 読んでます。特集で、町のいろんな人が知れて楽しい。  
― 今日、初めて見た。カラーできれいですね。  
― 参加してくださった皆さん、ご協力ありがとうございました。



(左から) 岡崎 安良さん 菊池 すずさん 今井 清香さん 宮岡 秀和さん (けやき館)